



経営の概要

- 就農地域：北海道 本別町
就農方法：第三者継承
営農開始：令和4年4月
営農形態：畑作
- 作物：小麦（秋まき）、てんさい、大豆、小豆、ばれいしょ（加工用）
 - 経営耕地面積：33ha
 - 農業従事者：夫、妻の2名

（取材日：令和8年7月8日）

✓ 田所洋平さん、優花さんのこと

洋平さんは兵庫県出身で、大学では水産を学び、卒業後、種苗会社へ就職。幼少期から生き物を育てることに関心があり、機会があれば就農にチャレンジしたいという思いを抱いていました。

優花さんは長野県出身で、レタス農家に生まれ育ちました。大学では遺伝子工学を学び、就職先について考えていた際に、実家で営んでいた農業の魅力に改めて触れ、志望する分野の一つとして考えるようになりました。

お二人は同じ会社に同期入社で出会い、結婚を見据えて将来の生活や働き方について考える中で、それぞれが抱いていた農業への思いが強まり、就農を決意。継承元農家（先代）である富川さんの元で2年間研修を受けて就農に至りました。

✓ 十勝地域・本別町で就農したきっかけ

洋平さんは就農地域を検討する中で、農業が盛んな北海道、特に十勝地域に関心を持っていました。また、就農するなら畑作に取り組みたいという思いを抱きながら、新規就農者向けのイベントに何度も参加。

各市町村の話を聞いていくと、畑作での新規参入は難しいと言われ、酪農や施設園芸を勧められました。そうした中、新規就農フェアに出展していた本別町の役場や農協職員から、まとまった畑地が継承できるとの話を聞き、思い描いていた環境が整っていた本別町での就農を決めました。

✓ 就農を振り返って

お二人は、「自分の思うように自由に経営を進められるのは農業の楽しいところ。一方で、経営に関する判断や結果の責任を自ら負うため、大きなやりがいと緊張感があります。

また、先代からの継承であるため、ゼロからスタートする新規就農者が直面する販売ルートの確保や初期の経営安定性などの課題が少ないところは良かったと感じています。その一方、夫婦双方の実家が遠方で近くに頼れる親族がないため、子育てには苦勞が絶えません。

今後は、現在の機械設備で対応できる範囲を見極めながら、経営規模の拡大を目指していきたいと考えています。子育てが一段落した後は、新しい作物にも挑戦していきたいです。

地域農業の発展に貢献し、十勝の食料生産を支える一員になれたら。」と話されました。



田所さん（左）と先代の富川さん（右）



もう少しで収穫期を迎える小麦畑

✓ 新規就農を目指すみなさんへ 田所さんからエール

新規就農を考えている方には、まず実際に人に会い、話を聞くことをお勧めしたいです。現場でしか得られない情報も多く、インターネットだけでは分からない地域の実情や経営のリアル等、情報をしっかり収集し、自分に合った地域や就農スタイルを見極めてほしいと思います。

また、就農後に自分の力を十分に発揮できるよう、技術や知識の習得など事前準備を入念に行っておくことが大切です。是非、一歩踏み出して挑戦してほしいと思います。



花が咲き始めたばれいしょ畑

✓ 地域の応援団から一言

令和4年4月に先代の富川さんの経営を継承し営農を開始してから、早や4年が経過しました。この間、JA本別町青年部の役員を担うなど、積極的に地域に溶け込み、先代の富川さんや地域の農業者の協力も得ながら、順調に営農されていることを嬉しく思います。今後も地域コミュニティを大切に、本別町の農業を支えてくれることを期待しています。（本別町役場職員）